

目指す学校像	創造型・発信型の心豊かなリーダーの育成
本年度の達成目標	1)生徒の学習意欲を高める教育活動 ・探究型授業の実践、追求 ・講義型授業の改善・発展 ・知識定着のための反復学習 2)心豊かな生徒の育成 ・生徒の主体的な活動推進により、自己肯定感を養う ・他者をいたわる心を育成し、マナーの向上を図る

番号	評価項目	年度当初			中間評価 (A~E)	最終評価(3月)		
		現状の問題点	具体的な改善策	評価指標		達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
1)	学習・進路	●学力格差の拡大 ●低学力の生徒への対応の必要性 ●探究の形骸化の虞・教師間の探究指導力のばらつきは是正の必要性 ●大学入試改革への対応の必要性 ●国際教育の充実の必要性	①学力向上策として、学年と教科が協力、補習・家庭学習の充実を図る(学年毎の自習部屋の設置等) ②夏期講習に新メニュー導入(プログラミング、言語学) ③探究の流れの再検討・発表の新しい試み(ギャラリーウォーク、ICTを駆使した発表形態) ④指定校推薦公開(6年生のみ) ⑤AO入試拡大への対応(面接指導体制強化等) ⑥教科ごとの模試分析の徹底 ⑦新教務システム導入 ⑧次年度へ向けてのカリキュラムの見直し(中学の英語・数学の時間数、内容の見直し) ⑨高校新課程への対応検討 ⑩国際教育の見直し(夏期講習に低学年向けの新英語講習導入、次年度の夏期海外研修校の拡大)	実践状況	C	①に関しては、低学年を中心に実施。②の夏期講習新メニュー③のギャラリーウォークは生徒にも好評で積極的な取り組み姿勢が見られた。④⑤を導入して推薦・AO入試での合格者が増加した。⑥を基に教科責任者と管理職とが面談、問題点が明確になった。⑦はトラブルはあったもののほぼ順調に滑り出している。⑧⑨は進路教務会議を中心に立案、軌道に乗せようとしている。⑩は学園のネイティブの協力を得参加生徒が増加。夏期海外研修は新コース増設を決定	C	2学期末に生徒にとった基本アンケートで生徒の学習面の問題が明確になったので、校務分掌にも変更を加え、具体的な改善策を立案予定。低学年から将来を見据えた進路教育を立案する。大学推薦入学後の指導検討。英語教育においては、中学年での海外研修にカナダを加え選択肢を広げる。また、取り出し授業の改革等で一層の充実を図る。ICTを活用し、より生徒の探究活動、また探究型の授業の推進を図る
2)	生徒指導	●部活動における生徒主体の活動の徹底 ●登下校マナーの低下による安全確保の問題 ●勉学への集中のため行事の整理の必要性	①生徒主体の活動強化のため、教員の部活動日直制の導入 ②熱中症対策のため部活動夏期活動基準の設定 ③登下校マナー向上指導の強化(アセンブリやHRでの講話、教員の下校指導) ④次年度へ向けて行事の見直し	実践状況	C	①導入当初は戸惑いが見られたもののほぼ定着。②WBGT測定器の導入が効果的を上げた。③は繰り返しの指導が必要。④では、1学期の学習時間確保のために合唱コンクールの時期を変更。	C	生徒の主体的動きが少ない行事を整理、生徒の主体的活動に重心を置き、自己肯定感の高い生徒を育成し、他者への思いやりの心を醸成する。登下校マナーの改善を図る。
その他	教育環境の整備	●ICT機器の導入、活用の必要性 ●老朽化した校舎の美化の必要性 ●防犯の見地から女子更衣室再開の必要性	①全教室にプロジェクターを設置(卒業記念品費18期生~21期生分) ②生徒用タブレットを1年生より導入(2年生のみ未使用) ③一貫部特別予算にて教員用タブレットの導入 ④HP運営管理の充実 ⑤校内美化の徹底 ⑥プラザ自習室のカーペット交換(開発バザー基金) ⑦女子更衣室の整備(くすのき会予備費)	実践状況	B	①は夏休み中に設置が完了、平常の授業で積極的な活用がなされている。②③でICTの活用が本格的になった。④はまだ発展途上。⑤は生徒・教員の協力でかなり整理されたが、まだ十分とは言えない。⑥⑦は生徒・保護者の強い要望による。次年度も整備継続。	B	全学年でタブレットが揃うので、学業面ばかりでなく、通達やアンケート等にも活用する。また、保護者からの出欠連絡もメールを採用、時間的余裕を作る。校内美化ばかりでなく防犯的な観点から必要な設備を再考する。HPの充実が課題。
	広報	●目標の高い生徒を入学させる必要性 ●入試業務の効率化を図る必要性	①塾回り、説明会の積極的運用 ②体験入学に午前午後の二部制を導入 ③Web出願の導入	実践状況	C	①②により本校に関心を持つ受験生・保護者が増加。秋口に一時説明会動員数が落ち込んだが受験直前に回復。受験者数は前年度並・入学者数増。(定員超過)③で効率化は進んだが導入初年度の為多少のトラブルがあった。	B	広報の面では、本校を第一志望とする生徒の増加を図り、志・質の高い生徒の獲得を企図する。そのために効率的な説明会・イベントや入試の形態を考える。
	教員研修	●魅力ある探究型授業を展開できる教員の育成の必要性	①管理職による専任教員全員面談 ②管理職と外部講師(西田弘次氏)による初任者研修 ③管理職による初任者授業観察 ④小田原先生によるミドル研修(5~6年目の教諭対象) ⑤教職員全員がICTを使いこなすための全体研修	実践状況	B	①③では担当管理職を配置、風通しの良い職場作りを狙った。②はコミュニケーション力を培う研修。④は例年お願いしているもの。⑤は教員用タブレットの導入計画もあり、全教員が積極的に参加した。	B	魅力ある授業を構築するするために、教員研修をより強化し、開智の探究型教育を体現できる教員を一人でも多く育成することを目指す。

達成度 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%程度) D:まだ不十分(30%程度) E:目標、方策の見直し(20%以下)